（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年6月30日※1
（前回公表年月日：令和4年7月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
福岡医健・スポーツ専門学校	平成14年4月1日	古谷野　潔	〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町7-30 （電話）092-262-2119
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟　邦彦	〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6-16-2 （電話）03-5578-3311

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	薬業科　くすり登録販売者コース	平成22年文部科学省告示第152号	—

学科の目的	一般医薬品や漢方薬などの適切な選択及び使用法・保管法などの情報提供能力を身に付け、登録販売者の資格を取得する。また、ドラッグストアにおいて、地域の医療・健康相談に貢献し、セルフメディケーションの普及に努め、店舗運営能力を持った人材を養成する。
認定年月日	平成 26 年 3 月 31 日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2,910	1,620	210	1,080	0	0
							単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人の内数	14人	1人	2人	12人	14人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 各科目について、出席率、授業態度、試験の成績、レポート・課題の成績等を総合的に勘案し、以下の4段階評価とする。
長期休み	■夏　季：　7月18日～ 8月20日 ■冬　季：12月25日～ 1月　9日 ■学年末：　2月　5日～ 3月31日	卒業・進級条件	1．進級認定：各年次の合計修得単位が57単位以上の者は進級することができる。2．2年間の合計修得単位が114単位以上の者は卒業することができる。
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 ①担任による定期的・継続的個別面談の実施及び保護者との密接な連携強化②成績不振者に対する個別指導強化及び補習の実施	課外活動	■課外活動の種類 ①各種企業プロジェクト実行委員会　②ボランティア実行委員会③学園祭実行委員会④体育大会実行委員会　その他 ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生） ドラッグストア、調剤薬局、病院 ■就職指導内容 就職を専門に支援するキャリアセンターを設置し、一人ひとりの希望に沿って、履歴書指導、面接指導、求人獲得、企業見学・採用試験の設定から内定獲得交渉等を個別に行っている。また、仮に卒業式までに就職が決まらなくても、全ての学生の就職が決まるまで、卒業後も支援を行っ ■卒業者数　8　人 ■就職希望者数　8　人 ■就職者数　8　人 ■就職率　100　% ■卒業者に占める就職者の割合 ：　100　% ■その他 令和4年度卒業者に関する 令和5年5月31日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和4年度卒業者に関する令和5年3月31日時点の情報） 資格・検定名 / 種 / 受験者数 / 合格者数 登録販売者 / ③ / 7人 / 3人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 （例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
中途退学の現状	■中途退学者　2 名　■中退率　13.3 % 令和４年４月１日時点において、在学者１５名（令和４年４月１日入学者を含む） 令和５年３月３１日時点において、在学者１３名（令和５年３月３１日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 経済的困窮、目的意識喪失 ■中退防止・中退者支援のための取組 ①成績不振者に対する個別指導強化及び補習の実施②付属の慶成会クリニックによる健康管理（受診料実費負担なし・薬代負担なし）③進路変更希望者に対しては、担任と共に専任の進路変更委員が支援を行う。本人の希望に基づき滋慶学園グループ内への転校・転科が可能④担任による定期的・継続的個別面談の実施及び保護者との連携強化⑤常駐の臨床心理士（カウンセラー）による早期介入支援（メンタルサポート）⑥学費や経済面のサポートは、事務局会計課・専任のファイナンシャルアドバイザー・奨学金担当がきめ細かな支援を行っている		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有 ①滋慶奨学金（在校生対象の貸与型奨学金・無利子） ②学費分割納入制度（無金利・手数料等無、保証人不要） ③長期履修制度（留年に伴う学費免除） ■専門実践教育訓練給付：　非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）		
当該学科のホームページURL	HTTP://www.iken.ac.jp/		

（留意事項）

1．公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3．主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役職員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役職員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業やカリキュラム等を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂く。また、教員による実習先訪問や就職担当による企業訪問を通して更なる情報収集を図る。それらを十分に生かしつつ、カリキュラムや授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成は、理事会の下に設置された教育課程編成委員会において討議した内容を十分に考慮したうえで、学科会議において編成を行うものとし、委員会の適切な運営は理事会が担保することになっている。また、教員組織規則において、「委員会の審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施する教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従って委員会を運営する。（以下図により、編成意思決定の過程を示す）

（教育課程編成委員会）P（プラン） → （学校・学科）D（実行） → （教育課程編成委員会）C（チェック） → （学校・学科）A（改善）

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
篠原　陽子	日本チェーンドラッグストア協会 事務局長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	①
中西　祐介	株式会社サンドラッグ 人事部採用課主任	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	③
土本　佳正	福岡医健・スポーツ専門学校 事務局長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
古谷野　潔	福岡医健・スポーツ専門学校 学校長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
河口　青児	福岡医健・スポーツ専門学校 副校長・教務部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
松原　敏昭	福岡医健・スポーツ専門学校 教務事務部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
有村　貴利	福岡医健・スポーツ専門学校 薬業科　専任教員	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は年2回開催し、第1回目を毎年5月、第2回目を翌年1月に実施している。今年度開催（予定）日時は以下の通り。また、委員会欠席委員に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて、適宜適切に分科会等を開催する場合がある。

（開催日時）

第1回　令和 5年 5月19日　15:30～17:00

第2回　令和 6年 1月26日　13:00～15:00（予定）

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
学生の学力差により教育達成度に偏りが出たり、質の低下があるのではないかとの指摘があり、学生の学力差の偏りを軽減するために検定対策科目に於いて学力別などの少人数制による教育を取り入れた。また、卒業後の教育の必要性の指摘があったので、卒業生に対する登録販売者の資格更新教育を実施する予定である。また、各ドラッグストアの特色と学生希望との良好なマッチングができないかとの指摘があり、マツモトキヨシ、ココカラファインなど大手7社の人事担当者にご来校頂いて、各ドラッグストアの特徴や求める人材像について、講義を行っていただいた。また、就職に於いて地元志向の学生が増えており、広域社員への関心を上げることができないかとの指摘があった。これに対応すべく、就職指導のシラバスを変更し本社採用のメリットやゼネラリストとしての魅力について、キャリア設計に基づいた教育を行った。また、学科を問わず全学科に共通した意見として、各委員からは、「コミュニケーション力の強化」「仕事に対する身構え・気構え・心構えといったプロ意識の確立」「社会的人格形成」「自主性・主体性・積極性の育成」「仕事観・職業観の確立による早期退職の防止」「基礎力と柔軟な応用力の育成」など、多くの意見をいただいた。これらを基に、コミュニケーションスキル検定の導入や授業内容・方法の改善を図ると共に、授業以外の教科指導、実習指導、生活指導、就職指導、国試対策指導等あらゆる機会をとらえて、キャリア教育の充実に向けた検討・環境整備に取り組んでいる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、「学校と業界が協力をして、業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学共同教育」を開校以来実践してきた。即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携して専門知識・技術、人間力を有した人材育成を行っている。このため、特に実習・演習科目に於いては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施及び達成度評価を行っている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修・臨床実習等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。実習実施前の協議を徹底すると共に、教員による実習巡回を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ドラッグストア実務実習	医薬品登録販売者店舗管理者要件である実務実習を月80時間行い、実践的に現場を学習する	株式会社コクミン、株式会社ココカラファイングループ、株式会社マツキヨココカラ＆カンパニー、株式会社ドラッグイレブン、株式会社ドラッグストアモリ、株式会社サンキュードラッグ、株式会社サンドラッグ、株式会社 大賀薬局、株式会社　コスモス薬品

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講習会に専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:ドラッグストアにおけるセルフメディケーション推進の事例
主　催:日本チェーンドラッグストア協会
実施日:令和4年8月19日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:ドラッグストア業界が、セルフメディケーション推進のために様々な取り組んでいる。人々の安全安心な暮らしを支えるためにその課題を検討する。

研修名:JMA講師研修会
主　催:一般社団法人JMA
実施日:令和4年9月27日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:検定基準・内容の確認や見直しなどを行う。また、就職に関する情報や講義、化粧品の新商品などの講座で知識を深めることができる。

研修名:薬膳・漢方検定研修
主　催:薬膳・漢方検定運営事務局
実施日:令和4年12月7日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:検定基準・内容の確認や業界に関する情報、資格の活用方法など、研修で知識を深めることができる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:医健4校勉強会
主　催:滋慶学園
実施日:令和5年6月2日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:滋慶学園グループ医健4校の広報・教育・就職に関して、各校の現状及び目標などを報告し、指導方法や課題について検討する。

研修名:医療事務教育分科会
主　催:滋慶学園
実施日:令和5年6月27日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:滋慶学園グループ医療事務系学科・コース担当者が、各校の現状などを話し合い、指導方法や課題について検討する。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:日本薬業専門学校連絡協議会
主　催:日本チェーンドラッグストア協会
実施日:日程調整中
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:医薬品業界の取り組み、プレゼンテーション、ドラッグストア業界の情勢を学び企業との情報交換を行う。

研修名:JMA講師研修会
主　催:一般社団法人JMA
実施日:日程調整中
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:検定基準・内容の確認や見直しなどを行う。また、就職に関する情報や講義、化粧品の新商品などの講座で知識を深めることができる。

研修名:薬業科教育分科会
主　催:滋慶学園
実施日:日程調整中
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:滋慶学園グループ薬業科担当者が、登録販売者教育、各校の現状などを話し合い、指導方法や課題について検討する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:薬業科教育分科会
主　催:滋慶学園
実施日:日程調整中
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:滋慶学園グループ薬業科担当者が、登録販売者教育、各校の現状などを話し合い、指導方法や課題について検討する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者、地域住民、高等学校、企業により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価して、様々な角度からアドバイスや支援を行うことを通して、学校運営の改善に活用することを方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	教育成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

薬業科に係る就職について概ね、3/31前後で就職率が100%になる傾向にあるが、卒業式までにできる限り就職100%を達成するよう改善できないかとの指摘を頂いた。就職が遅れる主な理由として、学生自身の就活の遅れがある為、職業観や仕事観を確立し学生の動機づけ・意識づけに力を注いだ。また、1年間に及ぶ実習を受け入れて頂いているが、就職は他企業へするケースがあるとの指摘があり、実習先を選定する段階から就職先を意識して決めるよう指導した。また、各委員より各項目概ね「評価4」の評価を頂いたが、その他の意見としては、学科を問わず学校全体への意見として、各委員から「コミュニケーション能力の更なる向上に努めてほしい」「就職100%と共に1年以内の離職率の低下が重要」「国家資格の合格率と共に受験率の更なる向上を期待する」「「中途退学率の更なる低減が必要」「基礎力と応用力の強化が重要」など多くの意見を頂いた。リーダー会議、学科会議、キャリアセンター会議、全体会議等でこれらの意見を共有し、具体的な対策を実施し、その実現を図っている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

（令和5年4月1日現在）

名　前	所　　属	任　　期	種　　別
村田　栄治	村田整骨院　院長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(柔道整復科)
要　信義	要鍼灸院　院長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(鍼灸科)
橋本　修二	社会医療法人財団池友会　福岡和白病院 医療連携室　主幹	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員 (救急救命公務員科)
福田　智	医療法人　せと山荘クリニック　統括部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(理学療法科)
丸田　淳司	医療法人誠和会　牟田病院　医療部門科長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(作業療法科)
案西　浩平	医療法人社団　桜香　あんざい歯科クリニック 理事長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(歯科衛生士科)
今里　安江	医療法人社団　扶洋会　秦病院　看護部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(看護科)
安積　研二	AcroBats株式会社　取締役会長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員 (スポーツ科学科)
中西　祐介	株式会社サンドラッグ　人事部採用課主任	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(薬業科)
谷口　貴隆	スポーツ科学科　卒業生	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	卒業生代表
冨崎　尚美	在校生(鍼灸科2年)保護者	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	保護者代表
稲富　勉	福岡県立香椎高等学校　校長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	高等学校関係者
戎﨑　淳一	福岡市博多区大浜公民館　館長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期　令和5年6月30日　(前回 令和4年6月30日)

(ホームページ)・広報誌等の刊行物　・その他(　　)

http://www.iken.ac.jp/

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実行方針で提起された目標(カリキュラムのイノベーション、中途退学率の低減、就職100%、国家試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒアリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。その為にも、学校の方針や考え方に加え、様々な詳細情報を十分に理解して頂いた上で、意見やアドバイス、支援を頂くことが重要となる。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である非常勤講師との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、企業とタイアップして行うイベント等あらゆる機会を活用して、積極的に情報の提供を行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校長名　所在地　連絡先　学校の沿革　建学の理念　学校安全関連　保健対策
(2)各学科等の教育	受入方法　定員　在校生数　カリキュラム　学年歴　シラバス　卒業進級判定基準　取得する称号 取得を目指す資格　資格試験合格実績　主な就職先
(3)教職員	教職員数　学校組織図　教員の実績
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育ロードマップ　業界研修　キャリアセンター　就職指導
(5)様々な教育活動・教育環境	設備紹介　海外実学研修　部活動
(6)学生の生活支援	中途退学防止支援　就職支援　健康支援　学費相談　進路変更支援　支援機関　支援制度
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧　奨学金　教育ローン案内
(8)学校の財務	財務資料
(9)学校評価	学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	留学生支援　留学生の受入れ状況　外国の学校との交流状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法 ホームページ　広報誌等の刊行物

URL:　http://www.iken.ac.jp/

（別紙様式１－２）

授業科目等の概要

（医療専門課程薬業科くすり登録販売者コース）令和５年度

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			情報処理Ⅰ	Windowsの基本操作の習得とWordでの文章・作図、Ｅｘｃｅｌでの表計算などができるようになる。	1	30	2		○		○			○	
2		○		情報処理Ⅱ	Windowsの基本操作の習得とPowerPointでのプレゼンテーション資料作成などができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
3	○			英会話	グローバルな感性を養い、国際化に対応できる日常英会話や病院での実践英会話と医療用語を習得することができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
4	○			コミュニケーションスキル	自己との対話や様々な感覚・覚醒の練習を通して、豊かな人間形成を図り、それをベースに日常のコミュニケーションを作り出すことができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
5			○	ホスピタリティ	ホスピタリティの基本を理解し、接客や接遇の場面でホスピタリティ精神を発揮することができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
6			○	ビジネス文書	ビジネス文書を正しく理解し、ビジネスで使われる基本的な文書が書けるようになる。	2	30	2	○			○			○	
7	○			接客カウンセリング	接客応対技術を患者様の心理的な側面より理解し、購買に繋げるカウンセリングができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
8	○			解剖生理学Ⅰ	人体総論及び、骨格系・皮膚・感覚器系・筋系など体の構造と働きについて説明できるようになる。	1	30	2	○			○			○	
9	○			解剖生理学Ⅱ	人体総論及び、骨格系・皮膚・感覚器系・筋系など体の構造と働きについて説明できるようになる。	1	30	2	○			○			○	
10	○			解剖生理学Ⅲ	呼吸器系・循環器系・消化器系など体の構造と働きについて説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
11	○			解剖生理学Ⅳ	神経系・生殖器系・泌尿器系・内分泌系など体の構造と働きについて説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
12	○			病態生理学	病気にかかる原因・主因及び誘因について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	

13	○			臨床医学	内科系・外科系など主な病気とその治療内容について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
14	○			薬事関係法規	医薬品取り扱いに関する法規、及び自己責任とセルフメディケーションについてて説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
15	○			医薬品の適正使用・安全対策	医薬品の適正使用情報・医薬品の安全対策について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
16	○			体の症状とヘルスケア	人体の症状とそのヘルスケアについて説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
17	○			こころとヘルスケア	こころの病気に起因した病気について学び、アドバイザーとしての知識を習得し、基礎的なヘルスケアができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
18	○			薬とヘルスケア	セルフメディケーションを推進する上で最も重要な一般用医薬品について理解し、医療従事者として情報提供ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
19	○			病気とヘルスケア	病気の予防・改善・健康の維持・増進を図るための説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
20	○			介護・応急処置・運動・応対	介護・応急手当・運動・応対の基礎知識を学び、説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
21	○			栄養・食生活・育児	人が健康な生活を送る為に必要な栄養・食生活について、患者様へのアドバイスができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
22	○			一般用医薬品論Ⅰ	精神神経・呼吸器官に作用する薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
23	○			一般用医薬品論Ⅱ	精神神経・呼吸器官に作用する薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
24	○			一般用医薬品論Ⅲ	胃腸に作用する薬・排泄に関わる部位に作用する薬・心臓などの器官や血液に作用する薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
25	○			一般用医薬品論Ⅳ	胃腸に作用する薬・排泄に関わる部位に作用する薬・心臓などの器官や血液に作用する薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
26	○			一般用医薬品論Ⅴ	婦人薬・アレルギー用薬・鼻に用いる薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
27	○			一般用医薬品論Ⅵ	婦人薬・アレルギー用薬・鼻に用いる薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	

28	○			一般用医薬品論Ⅶ	皮膚に用いる薬・眼科用薬・歯や口中に用いる薬・禁煙補助剤について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
29	○			一般用医薬品論Ⅷ	滋養強壮保健薬・漢方処方製剤・生薬製剤について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
30	○			一般用医薬品論Ⅸ	滋養強壮保健薬・漢方処方製剤・生薬製剤について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
31	○			一般用医薬品論Ⅹ	公衆衛生用薬・一般用検査薬について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
32		○		基礎漢方学Ⅰ	東洋医学の観点から、漢方薬の成分・効能効果・副作用の基礎について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
33		○		基礎漢方学Ⅱ	東洋医学の観点から、漢方薬の成分・効能効果・副作用の基礎について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
34		○		卒業研究Ⅰ	2年間学習したことや体得したことを、個人またはグループでテーマを設定し、発表することができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
35		○		卒業研究Ⅱ	2年間学習したことや体得したことを、個人またはグループでテーマを設定し、発表することができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
36		○		卒業研究Ⅲ	2年間学習したことや体得したことを、個人またはグループでテーマを設定し、発表することができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
37			○	SPI	就職試験を成功させるために対策学習を学び、就職活動に対応できる能力を身につけることができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
38			○	登録販売者特別講座Ⅰ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
39			○	登録販売者特別講座Ⅱ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
40			○	登録販売者特別講座Ⅲ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
41			○	登録販売者特別講座Ⅳ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
42			○	登録販売者特別講座Ⅴ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	

43			○	登録販売者特別講座Ⅵ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
44			○	登録販売者特別講座Ⅶ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
45			○	登録販売者特別講座Ⅷ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
46			○	登録販売者特別講座Ⅸ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
47			○	実習指導Ⅰ	ドラッグストアにおける実務実習について、現場での留意点や技術向上のための知識を身につけることができるようになる。	1	30	2	○			○		○		
48			○	実習指導Ⅱ	ドラッグストアにおける実務実習について、現場での留意点や技術向上のための知識を身につけることができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
49			○	実習指導Ⅲ	ドラッグストアにおける実務実習について、現場での留意点や技術向上のための知識を身につけることができるようになる。	1	30	2	○			○		○		
50			○	就職指導	就職活動を成功させるために社会人基礎力を学び、履歴書作成・面接の実践ができるようになる。	2	30	2		○		○		○		
51			○	ドラッグストア実務実習	登録販売者（店舗管理者）の要件である実務実習を月80時間程度行い、実践的な知識と技術を身につけることができるようになる。	1 2	960	32			○		○		○	○
52			○	海外研修	海外の病院や医薬品業界を視察し、国際人としての知識を身につけることができるようになる。	1	120	4			○		○		○	
53		○		東洋医学	東洋医学的な立場から疾病の診断・治療方法を学び、説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
54		○		漢方学	漢方薬の成分・効能効果・副作用について学ぶ。また、漢方処方の仕方について学び説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
55		○		流通・小売業	生産者や卸売業者から仕入れた商品を、消費者に販売するための仕組みや流通について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
56		○		簿記・販売	企業における経理事務に必要な会計知識の習得と経営分析ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
57		○		販売士Ⅰ	マーケティングの基本的な考え方など知識・技能を身につけ、販売担当として接客や売場づくりができるようになる。	2	30	2	○			○			○	

58		○		販売士Ⅱ	マーケティングの基本的な考え方など知識・技能を身につけ、販売担当として接客や売場づくりができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
59		○		サプリメントⅠ	サプリメントの基礎知識を学び、健康の維持・増進、栄養素の補給や強化などの説明ができるようになる。	2	30	2	○				○		○	
60		○		サプリメントⅡ	サプリメントの基礎知識を学び、健康の維持・増進、栄養素の補給や強化などの説明ができるようになる。	2	30	2	○				○		○	
61			○	ドラッグストア総論Ⅰ	ドラッグストアに関する総合的な知識を学ぶ。様々な分野の商品知識を習得し、説明ができるようになる。	2	30	2	○				○		○	
62			○	ドラッグストア総論Ⅱ	ドラッグストアに関する総合的な知識を学ぶ。様々な分野の商品知識を習得し、説明ができるようになる。	2	30	2	○				○		○	
63			○	ドラッグストア総論Ⅲ	ドラッグストアに関する総合的な知識を学ぶ。様々な分野の商品知識を習得し、説明ができるようになる。	2	30	2	○				○		○	
合計					63 科目			158 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	２年間の合計修得単位が１１４単位以上の者は、卒業することができる。 ※不合格科目のある者は卒業判定会議により最終決定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	講義・演習・実技・実習のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年6月30日※1
（前回公表年月日 令和4年7月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
福岡医健・スポーツ専門学校	平成14年4月1日	古谷野 潔	〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町7-30 （電話）092-262-2119
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6-16-2 （電話）03-5578-3311

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	薬業科 調剤薬局コース	平成22年文部科学省告示第152号	—

学科の目的	病院や調剤薬局における調剤請求事務・患者接遇・調剤補助の技術を持ち、医療事務員として薬剤業務に貢献できる人材を養成する。また、登録販売者の資格を取得し、一般用医薬品などの適切な使用方法や保管方法の情報提供能力を身に付ける。
認定年月日	平成 26 年 3 月 31 日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	2,970	1,620	270	1,080	0	0
							単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人	17人	0人	2人	12人	14人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 各科目について、出席率、授業態度、試験の成績、レポート・課題の成績等を総合的に勘案し、以下の4段階評価とする。
長期休み	■夏 季： 7月18日～ 8月20日 ■冬 季：12月25日～ 1月 9日 ■学年末： 2月 5日～ 3月31日	卒業・進級条件	1．進級認定-各年次の合計修得単位が57単位以上の者は進級することができる。2．2年間の合計修得単位が114単位以上の者は卒業することができる。
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 ①担任による定期的・継続的個別面談の実施及び保護者との密接な連携強化②成績不振者に対する個別指導強化及び補習の実施	課外活動	■課外活動の種類 ①各種企業プロジェクト実行委員会 ②ボランティア実行委員会③学園祭実行委員会④体育大会実行委員会 その他 ■サークル活動： 有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生） 病院薬局 調剤薬局 ドラッグストア ■就職指導内容 就職を専門に支援するキャリアセンターを設置し、一人ひとりの希望に沿って、履歴書指導、面接指導、求人獲得、企業見学・採用試験の設定から内定獲得交渉等を個別に行っている。また、仮に卒業式までに就職が決まらなくても、全ての学生の就職が決まるまで、卒業後も支援を行っ ■卒業者数 7 人 ■就職希望者数 6 人 ■就職者数 6 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 85.7 % ■その他 令和4年度卒業者に関する 令和5年5月31日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和4年度卒業者に関する令和5年3月31日時点の情報） 資格・検定名 / 種 / 受験者数 / 合格者数 登録販売者 / ③ / 6人 / 4人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 （例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
中途退学の現状	■中途退学者 2 名 ■中退率 11.7 % 令和４年４月１日時点において、在学者１７名（令和４年４月１日入学者を含む） 令和５年３月３１日時点において、在学者１５名（令和５年３月３１日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 目的意識喪失、進路変更。 ■中退防止・中退者支援のための取組 ①成績不振者に対する個別指導強化及び補習の実施②付属の慶成会クリニックによる健康管理（受診料実費負担なし・薬代負担なし）③進路変更希望者に対しては、担任と共に専任の進路変更委員が支援を行う。本人の希望に基づき滋慶学園グループ内への転校・転科が可能④担任による定期的・継続的個別面談の実施及び保護者との連携強化⑤常駐の臨床心理士（カウンセラー）による早期介入支援（メンタルサポート）⑥学費や経済面のサポートは、事務局会計課・専任のファイナンシャルアドバイザー・奨学金担当がきめ細かな支援を行っている		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ①滋慶奨学金（在校生対象の貸与型奨学金・無利子） ②学費分割納入制度（無金利・手数料等無、保証人不要） ③長期履修制度（留年に伴う学費免除） ■専門実践教育訓練給付： 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）		
当該学科のホームページURL	HTTP://www.iken.ac.jp/		

（留意事項）

1．公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3．主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役職員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役職員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業やカリキュラム等を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂く。また、教員による実習先訪問や就職担当による企業訪問を通して更なる情報収集を図る。それらを十分に生かしつつ、カリキュラムや授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成は、理事会の下に設置された教育課程編成委員会において討議した内容を十分に考慮したうえで、学科会議において編成を行うものとし、委員会の適切な運営は理事会が担保することになっている。また、教員組織規則において、「委員会の審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施する教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従って委員会を運営する。（以下図により、編成意思決定の過程を示す）

（教育課程編成委員会）P（プラン） → （学校・学科）D（実行） → （教育課程編成委員会）C（チェック） → （学校・学科）A（改善） → P（プラン）

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
篠原　陽子	日本チェーンドラッグストア協会 事務局長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	①
中西　祐介	株式会社サンドラッグ 人事部採用課主任	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	③
土本　佳正	福岡医健・スポーツ専門学校 事務局長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
古谷野　潔	福岡医健・スポーツ専門学校 学校長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
河口　青児	福岡医健・スポーツ専門学校 副校長・教務部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
松原　敏昭	福岡医健・スポーツ専門学校 教務事務部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
有村　貴利	福岡医健・スポーツ専門学校 薬業科　専任教員	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は年2回開催し、第1回目を毎年5月、第2回目を翌年1月に実施している。今年度開催（予定）日時は以下の通り。また、委員会欠席委員に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて、適宜適切に分科会等を開催する場合がある。

（開催日時）

第1回　令和 5年 5月19日　15:30～17:00

第2回　令和 6年 1月26日　13:00～15:00（予定）

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
学生の学力差により教育達成度に偏りが出たり、質の低下があるのではないかとの指摘があり、学生の学力差の偏りを軽減するために検定対策科目に於いて学力別などの少人数制による教育を取り入れた。また、卒業後の教育の必要性の指摘があったので、卒業生に対する登録販売者の資格更新教育を実施する予定である。また、各ドラッグストアの特色と学生希望との良好なマッチングができないかとの指摘があり、マツモトキヨシ、ココカラファインなど大手7社の人事担当者にご来校頂いて、各ドラッグストアの特徴や求める人材像について、講義を行っていただいた。また、就職に於いて地元志向の学生が増えており、広域社員への関心を上げることができないかとの指摘があった。これに対応すべく、就職指導のシラバスを変更し本社採用のメリットやゼネラリストとしての魅力について、キャリア設計に基づいた教育を行った。また、学科を問わず全学科に共通した意見として、各委員からは、「コミュニケーション力の強化」「仕事に対する身構え・気構え・心構えといったプロ意識の確立」「社会的人格形成」「自主性・主体性・積極性の育成」「仕事観・職業観の確立による早期退職の防止」「基礎力と柔軟な応用力の育成」など、多くの意見をいただいた。これらを基に、コミュニケーションスキル検定の導入や授業内容・方法の改善を図ると共に、授業以外の教科指導、実習指導、生活指導、就職指導、国試対策指導等あらゆる機会をとらえて、キャリア教育の充実に向けた検討・環境整備に取り組んでいる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、「学校と業界が協力をして、業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学共同教育」を開校以来実践してきた。即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携して専門知識・技術、人間力を有した人材育成を行っている。このため、特に実習・演習科目に於いては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施及び達成度評価を行っている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修・臨床実習等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。実習実施前の協議を徹底すると共に、教員による実習巡回を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
ドラッグストア実務実習	医薬品登録販売者店舗管理者要件である実務実習を月80時間行い、実践的に現場を学習する	株式会社コクミン、株式会社ココカラファイングループ、株式会社マツキヨココカラ＆カンパニー、株式会社ドラッグイレブン、株式会社ドラッグストアモリ、株式会社サンキュードラッグ、株式会社サンドラッグ、株式会社 大賀薬局、株式会社　コスモス薬品

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講習会に専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:ドラッグストアにおけるセルフメディケーション推進の事例
主　催:日本チェーンドラッグストア協会
実施日:令和4年8月19日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:ドラッグストア業界が、セルフメディケーション推進のために様々な取り組んでいる。人々の安全安心な暮らしを支えるためにその課題を検討する。

研修名:JMA講師研修会
主　催:一般社団法人JMA
実施日:令和4年9月27日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:検定基準・内容の確認や見直しなどを行う。また、就職に関する情報や講義、化粧品の新商品などの講座で知識を深めることができる。

研修名:薬膳・漢方検定研修
主　催:薬膳・漢方検定運営事務局
実施日:令和4年12月7日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:検定基準・内容の確認や業界に関する情報、資格の活用方法など、研修で知識を深めることができる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:医健4校勉強会
主　催:滋慶学園
実施日:令和5年6月2日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:滋慶学園グループ医健4校の広報・教育・就職に関して、各校の現状及び目標などを報告し、指導方法や課題について検討する。

研修名:医療事務教育分科会
主　催:滋慶学園
実施日:令和5年6月27日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:滋慶学園グループ医療事務系学科・コース担当者が、各校の現状などを話し合い、指導方法や課題について検討する。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:日本薬業専門学校連絡協議会
主　催:日本チェーンドラッグストア協会
実施日:日程調整中
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:医薬品業界の取り組み、プレゼンテーション、ドラッグストア業界の情勢を学び企業との情報交換を行う。

研修名:JMA講師研修会
主　催:一般社団法人JMA
実施日:日程調整中
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:検定基準・内容の確認や見直しなどを行う。また、就職に関する情報や講義、化粧品の新商品などの講座で知識を深めることができる。

研修名:薬業科教育分科会
主　催:滋慶学園
実施日:日程調整中
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:滋慶学園グループ薬業科担当者が、登録販売者教育、各校の現状などを話し合い、指導方法や課題について検討する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:薬業科教育分科会
主　催:滋慶学園
実施日:日程調整中
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:滋慶学園グループ薬業科担当者が、登録販売者教育、各校の現状などを話し合い、指導方法や課題について検討する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者、地域住民、高等学校、企業により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価して、様々な角度からアドバイスや支援を行うことを通して、学校運営の改善に活用することを方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	教育成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

薬業科に係る就職について概ね、3/31前後で就職率が100%になる傾向にあるが、卒業式までにできる限り就職100%を達成するよう改善できないかとの指摘を頂いた。就職が遅れる主な理由として、学生自身の就活の遅れがある為、職業観や仕事観を確立し学生の動機づけ・意識づけに力を注いだ。また、1年間に及ぶ実習を受け入れて頂いているが、就職は他企業へするケースがあるとの指摘があり、実習先を選定する段階から就職先を意識して決めるよう指導した。また、各委員より各項目概ね「評価4」の評価を頂いたが、その他の意見としては、学科を問わず学校全体への意見として、各委員から「コミュニケーション能力の更なる向上に努めてほしい」「就職100%と共に1年以内の離職率の低下が重要」「国家資格の合格率と共に受験率の更なる向上を期待する」「中途退学率の更なる低減が必要」「基礎力と応用力の強化が重要」など多くの意見を頂いた。リーダー会議、学科会議、キャリアセンター会議、全体会議等でこれらの意見を共有し、具体的な対策を実施し、その実現を図っている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

(令和5年4月1日現在)

名　前	所　　属	任　　期	種　　別
村田　栄治	村田整骨院　院長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(柔道整復科)
要　信義	要鍼灸院　院長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(鍼灸科)
橋本　修二	社会医療法人財団池友会　福岡和白病院 医療連携室　主幹	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員 (救急救命公務員科)
福田　智	医療法人　せと山荘クリニック　統括部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(理学療法科)
丸田　淳司	医療法人誠和会　牟田病院　医療部門科長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(作業療法科)
案西　浩平	医療法人社団　桜香　あんざい歯科クリニック 理事長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(歯科衛生士科)
今里　安江	医療法人社団　扶洋会　桑病院　看護部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(看護科)
安積　研二	AcroBats株式会社　取締役会長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員 (スポーツ科学科)
中西　祐介	株式会社サンドラッグ　人事部採用課主任	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(薬業科)
谷口　貴隆	スポーツ科学科　卒業生	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	卒業生代表
冨崎　尚美	在校生(鍼灸科2年)保護者	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	保護者代表
稲富　勉	福岡県立香椎高等学校　校長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	高等学校関係者
戎﨑　淳一	福岡市博多区大浜公民館　館長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期　令和5年6月30日　(前回 令和4年6月30日)

(ホームページ)　・　広報誌等の刊行物　・　その他(　　)　)

http://www.iken.ac.jp/

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実行方針で提起された目標(カリキュラムのイノベーション、中途退学率の低減、就職100%、国家試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒアリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。その為にも、学校の方針や考え方に加え、様々な詳細情報を十分に理解して頂いた上で、意見やアドバイス、支援を頂くことが重要となる。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である非常勤講師との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、企業とタイアップして行うイベント等あらゆる機会を活用して、積極的に情報の提供を行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校長名　所在地　連絡先　学校の沿革　建学の理念　学校安全関連　保健対策
(2)各学科等の教育	受入方法　定員　在校生数　カリキュラム　学年歴　シラバス　卒業進級判定基準　取得する称号 取得を目指す資格　資格試験合格実績　主な就職先
(3)教職員	教職員数　学校組織図　教員の実績
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育ロードマップ　業界研修　キャリアセンター　就職指導
(5)様々な教育活動・教育環境	設備紹介　海外実学研修　部活動
(6)学生の生活支援	中途退学防止支援　就職支援　健康支援　学費相談　進路変更支援　支援機関　支援制度
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧　奨学金　教育ローン案内
(8)学校の財務	財務資料
(9)学校評価	学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	留学生支援　留学生の受入れ状況　外国の学校との交流状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法 ホームページ　広報誌等の刊行物

URL:　http://www.iken.ac.jp/

（別紙様式１－２）

授業科目等の概要

	（医療専門課程薬業科調剤薬局コース）令和５年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			情報処理Ⅰ	Windowsの基本操作の習得とWordでの文章・作図、Ｅｘｃｅｌでの表計算などができるようになる。	1	30	2		○		○			○	
2		○		情報処理Ⅱ	Windowsの基本操作の習得とPowerPointでのプレゼンテーション資料作成などができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
3	○			英会話	グローバルな感性を養い、国際化に対応できる日常英会話や病院での実践英会話と医療用語を習得することができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
4	○			コミュニケーションスキル	自己との対話や様々な感覚・覚醒の練習を通して、豊かな人間形成を図り、それをベースに日常のコミュニケーションを作り出すことができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
5			○	ホスピタリティ	ホスピタリティの基本を理解し、接客や接遇の場面でホスピタリティ精神を発揮することができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
6			○	ビジネス文書	ビジネス文書を正しく理解し、ビジネスで使われる基本的な文書が書けるようになる。	2	30	2	○			○			○	
7	○			接客カウンセリング	接客応対技術を患者様の心理的な側面より理解し、購買に繋げるカウンセリングができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
8	○			解剖生理学Ⅰ	人体総論及び、骨格系・皮膚・感覚器系・筋系など体の構造と働きについて説明できるようになる。	1	30	2	○			○			○	
9	○			解剖生理学Ⅱ	人体総論及び、骨格系・皮膚・感覚器系・筋系など体の構造と働きについて説明できるようになる。	1	30	2	○			○			○	
10	○			解剖生理学Ⅲ	呼吸器系・循環器系・消化器系など体の構造と働きについて説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
11	○			解剖生理学Ⅳ	神経系・生殖器系・泌尿器系・内分泌系など体の構造と働きについて説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
12	○			病態生理学	病気にかかる原因・主因及び誘因について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	

13	○			臨床医学	内科系・外科系など主な病気とその治療内容について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
14	○			薬事関係法規	医薬品取り扱いに関する法規、及び自己責任とセルフメディケーションについてて説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
15	○			医薬品の適正使用・安全対策	医薬品の適正使用情報・医薬品の安全対策について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
16	○			体の症状とヘルスケア	人体の症状とそのヘルスケアについて説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
17	○			こころとヘルスケア	こころの病気に起因した病気について学び、アドバイザーとしての知識を習得し、基礎的なヘルスケアができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
18	○			薬とヘルスケア	セルフメディケーションを推進する上で最も重要な一般用医薬品について理解し、医療従事者として情報提供ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
19	○			病気とヘルスケア	病気の予防・改善・健康の維持・増進を図るための説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
20	○			介護・応急処置・運動・応対	介護・応急手当・運動・応対の基礎知識を学び、説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
21	○			栄養・食生活・育児	人が健康な生活を送る為に必要な栄養・食生活について、患者様へのアドバイスができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
22	○			一般用医薬品論Ⅰ	精神神経・呼吸器官に作用する薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
23	○			一般用医薬品論Ⅱ	精神神経・呼吸器官に作用する薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
24	○			一般用医薬品論Ⅲ	胃腸に作用する薬・排泄に関わる部位に作用する薬・心臓などの器官や血液に作用する薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
25	○			一般用医薬品論Ⅳ	胃腸に作用する薬・排泄に関わる部位に作用する薬・心臓などの器官や血液に作用する薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
26	○			一般用医薬品論Ⅴ	婦人薬・アレルギー用薬・鼻に用いる薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
27	○			一般用医薬品論Ⅵ	婦人薬・アレルギー用薬・鼻に用いる薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	

28	○			一般用医薬品論Ⅶ	皮膚に用いる薬・眼科用薬・歯や口中に用いる薬・禁煙補助剤について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
29	○			一般用医薬品論Ⅷ	滋養強壮保健薬・漢方処方製剤・生薬製剤について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
30	○			一般用医薬品論Ⅸ	滋養強壮保健薬・漢方処方製剤・生薬製剤について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
31	○			一般用医薬品論Ⅹ	公衆衛生用薬・一般用検査薬について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
32		○		基礎漢方学Ⅰ	東洋医学の観点から、漢方薬の成分・効能効果・副作用の基礎について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
33		○		基礎漢方学Ⅱ	東洋医学の観点から、漢方薬の成分・効能効果・副作用の基礎について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
34		○		卒業研究Ⅰ	2年間学習したことや体得したことを、個人またはグループでテーマを設定し、発表することができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
35		○		卒業研究Ⅱ	2年間学習したことや体得したことを、個人またはグループでテーマを設定し、発表することができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
36		○		卒業研究Ⅲ	2年間学習したことや体得したことを、個人またはグループでテーマを設定し、発表することができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
37			○	SPI	就職試験を成功させるために対策学習を学び、就職活動に対応できる能力を身につけることができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
38			○	登録販売者特別講座Ⅰ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
39			○	登録販売者特別講座Ⅱ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
40			○	登録販売者特別講座Ⅲ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
41			○	登録販売者特別講座Ⅳ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
42			○	登録販売者特別講座Ⅴ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	

43			○	登録販売者特別講座Ⅵ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
44			○	登録販売者特別講座Ⅶ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
45			○	登録販売者特別講座Ⅷ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
46			○	登録販売者特別講座Ⅸ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
47			○	実習指導Ⅰ	ドラッグストアにおける実務実習について、現場での留意点や技術向上のための知識を身につけることができるようになる。	1	30	2	○			○		○		
48			○	実習指導Ⅱ	ドラッグストアにおける実務実習について、現場での留意点や技術向上のための知識を身につけることができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
49			○	実習指導Ⅲ	ドラッグストアにおける実務実習について、現場での留意点や技術向上のための知識を身につけることができるようになる。	1	30	2	○			○		○		
50			○	就職指導	就職活動を成功させるために社会人基礎力を学び、履歴書作成・面接の実践ができるようになる。	2	30	2		○		○		○		
51			○	ドラッグストア実務実習	登録販売者（店舗管理者）の要件である実務実習を月80時間程度行い、実践的な知識と技術を身につけることができるようになる。	1 2	960	32			○		○		○	○
52			○	海外研修	海外の病院や医薬品業界を視察し、国際人としての知識を身につけることができるようになる。	1	120	4			○		○		○	
53		○		調剤報酬Ⅰ	調剤薬局で必要な調剤報酬請求事務の基礎を学び、実務に活かすことができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
54		○		調剤報酬Ⅱ	調剤薬局で必要な調剤報酬請求事務の基礎を学び、実務に活かすことができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
55		○		調剤報酬Ⅲ	調剤薬局で必要な調剤報酬請求事務の基礎を学び、実務に活かすことができるようになる。	2	15	1	○			○			○	
56			○	調剤報酬特別講座	調剤報酬請求事務専門士検定の対策学習を行い、検定に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
57		○		診療報酬請求事務Ⅰ	病院事務職の知識として必須である診療報酬請求事務の基礎を習得し、外来会計の検定資格を取得できるようになる。	1	30	2	○			○			○	

58		○		診療報酬請求事務Ⅱ	病院事務職の知識として必須である診療報酬請求事務の基礎を習得し、外来会計の検定資格を取得できるようになる。	1	30	2	○			○			○	
59		○		診療報酬請求事務Ⅲ	病院事務職の知識として必須である診療報酬請求事務の基礎を習得し、外来会計の検定資格を取得できるようになる。	2	30	2	○			○			○	
60		○		医療関連法規	医療に関する法律や、健康保険について学ぶ。また薬務法規・公費負担医療の基礎知識等の理解を深め、説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
61		○		臨床医学Ⅱ	診療報酬請求に必要な医学知識として、内科・外科などの主な病気とその治療法について学び、正しく医療請求ができるようになる。	2	30	2	○			○		○		
62		○		コンピュータ関連知識	医療情報システムの理解と基礎技術を資格取得レベルで習得できるようになる。	2	30	2	○			○			○	
63		○		医事コンピュータ・医療事務	医事コンピュータにかかる医療保険制度・診療報酬・外来診療など基本的な医療事務知識を説明することができるようになる。	2	15	1	○			○			○	
64		○		医事コンピュータⅠ	医療機関で使用されているコンピュータを使用し、保険請求の一連の流れを理解し、オペレーター業務ができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
65		○		医事コンピュータⅡ	医療機関で使用されているコンピュータを使用し、保険請求の一連の流れを理解し、オペレーター業務ができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
66			○	医療事務特別講義Ⅰ	医療秘書技能検定の対策学習を行い、検定に合格することができるようになる。	2	15	1	○			○			○	
67			○	医療事務特別講義Ⅱ	医事コンピュータ技能検定の対策学習を行い、検定に合格することができるようになる。	2	15	1	○			○			○	
合計					67 科目			162 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	２年間の合計修得単位が１１４単位以上の者は、卒業することができる。 ※不合格科目のある者は卒業判定会議により最終決定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	講義・演習・実技・実習のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年6月30日※1
（前回公表年月日：令和　年　月　日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
福岡医健・スポーツ専門学校	平成14年4月1日	古谷野　潔	〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町7-30 （電話）092-262-2119
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟　邦彦	〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6-16-2 （電話）03-5578-3311

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	薬業科　美容アドバイザーコース	平成22年文部科学省告示第152号	—

学科の目的	登録販売者と日本化粧品検定2級、日本メイクアップ技術検定1級などを取得し、肌や健康美に関する医療知識とメイクアップテクニックを身に付け、接客販売ができるビューティアドバイザーを養成する。
認定年月日	平成 26 年 3 月 31 日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	3,000	1,350	570	1,080	0	0
							単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
80人	5人	0人	2人	12人	14人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 各科目について、出席率、授業態度、試験の成績、レポート・課題の成績等を総合的に勘案し、以下の4段階評価とする。
長期休み	■夏　季：7月18日～8月20日 ■冬　季：12月25日～1月　9日 ■学年末：2月　5日～3月31日	卒業・進級条件	1．進級認定：各年次の合計修得単位が57単位以上の者は進級することができる。2．2年間の合計修得単位が114単位以上の者は卒業することができる。
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 ①担任による定期的・継続的個別面談の実施及び保護者との密接な連携強化②成績不振者に対する個別指導強化及び補習の実施	課外活動	■課外活動の種類 ①各種企業プロジェクト実行委員会　②ボランティア実行委員会③学園祭実行委員会④体育大会実行委員会　その他 ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生） エステティックサロン ■就職指導内容 就職を専門に支援するキャリアセンターを設置し、一人ひとりの希望に沿って、履歴書指導、面接指導、求人獲得、企業見学・採用試験の設定から内定獲得交渉等を個別に行っている。また、仮に卒業式までに就職が決まらなくても、全ての学生の就職が決まるまで、卒業後も支援を行っ ■卒業者数　1　人 ■就職希望者数　1　人 ■就職者数　1　人 ■就職率　100　% ■卒業者に占める就職者の割合：100　% ■その他 令和4年度卒業者に関する 令和5年5月31日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和4年度卒業者に関する令和5年3月31日時点の情報） 資格・検定名｜種｜受験者数｜合格者数 登録販売者｜③｜1人｜1人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 （例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
中途退学の現状	■中途退学者　0 名　■中退率　0.0 % 令和４年４月１日時点において、在学者５名（令和４年４月１日入学者を含む） 令和５年３月３１日時点において、在学者５名（令和５年３月３１日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 なし。 ■中退防止・中退者支援のための取組 ①成績不振者に対する個別指導強化及び補習の実施②付属の慶成会クリニックによる健康管理（受診料実費負担なし・薬代負担なし）③進路変更希望者に対しては、担任と共に専任の進路変更委員が支援を行う。本人の希望に基づき滋慶学園グループ内への転校・転科が可能④担任による定期的・継続的個別面談の実施及び保護者との連携強化⑤常駐の臨床心理士（カウンセラー）による早期介入支援（メンタルサポート）⑥学費や経済面のサポートは、事務局会計課・専任のファイナンシャルアドバイザー・奨学金担当がきめ細かな支援を行っている		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：有 ①滋慶奨学金（在校生対象の貸与型奨学金・無利子） ②学費分割納入制度（無金利・手数料等無、保証人不要） ③長期履修制度（留年に伴う学費免除） ■専門実践教育訓練給付：非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）		
当該学科のホームページURL	HTTP://www.iken.ac.jp/		

（留意事項）

1．公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2．就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3．主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役職員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役職員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業やカリキュラム等を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂く。また、教員による実習先訪問や就職担当による企業訪問を通して更なる情報収集を図る。それらを十分に生かしつつ、カリキュラムや授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成は、理事会の下に設置された教育課程編成委員会において討議した内容を十分に考慮したうえで、学科会議において編成を行うものとし、委員会の適切な運営は理事会が担保することになっている。また、教員組織規則において、「委員会の審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施する教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従って委員会を運営する。（以下図により、編成意思決定の過程を示す）

（教育課程編成委員会）P（プラン） → （学校・学科）D（実行） → （教育課程編成委員会）C（チェック） → （学校・学科）A（改善）

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名　前	所　属	任期	種別
篠原　陽子	日本チェーンドラッグストア協会 事務局長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	①
中西　祐介	株式会社サンドラッグ 人事部採用課主任	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	③
土本　佳正	福岡医健・スポーツ専門学校 事務局長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
古谷野　潔	福岡医健・スポーツ専門学校 学校長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
河口　青児	福岡医健・スポーツ専門学校 副校長・教務部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
松原　敏昭	福岡医健・スポーツ専門学校 教務事務部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
有村　貴利	福岡医健・スポーツ専門学校 薬業科　専任教員	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は年2回開催し、第1回目を毎年5月、第2回目を翌年1月に実施している。今年度開催（予定）日時は以下の通り。また、委員会欠席委員に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて、適宜適切に分科会等を開催する場合がある。

（開催日時）

第1回　令和 5年 5月19日　15:30～17:00

第2回　令和 6年 1月26日　13:00～15:00（予定）

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
学生の学力差により教育達成度に偏りが出たり、質の低下があるのではないかとの指摘があり、学生の学力差の偏りを軽減するために検定対策科目に於いて学力別などの少人数制による教育を取り入れた。また、卒業後の教育の必要性の指摘があったので、卒業生に対する登録販売者の資格更新教育を実施する予定である。また、各ドラッグストアの特色と学生希望との良好なマッチングができないかとの指摘があり、マツモトキヨシ、ココカラファインなど大手7社の人事担当者にご来校頂いて、各ドラッグストアの特徴や求める人材像について、講義を行っていただいた。また、就職に於いて地元志向の学生が増えており、広域社員への関心を上げることができないかとの指摘があった。これに対応すべく、就職指導のシラバスを変更し本社採用のメリットやゼネラリストとしての魅力について、キャリア設計に基づいた教育を行った。また、学科を問わず全学科に共通した意見として、各委員からは、「コミュニケーション力の強化」「仕事に対する身構え・気構え・心構えといったプロ意識の確立」「社会的人格形成」「自主性・主体性・積極性の育成」「仕事観・職業観の確立による早期退職の防止」「基礎力と柔軟な応用力の育成」など、多くの意見をいただいた。これらを基に、コミュニケーションスキル検定の導入や授業内容・方法の改善を図ると共に、授業以外の教科指導、実習指導、生活指導、就職指導、国試対策指導等あらゆる機会をとらえて、キャリア教育の充実に向けた検討・環境整備に取り組んでいる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、「学校と業界が協力をして、業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学共同教育」を開校以来実践してきた。即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携して専門知識・技術、人間力を有した人材育成を行っている。このため、特に実習・演習科目に於いては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施及び達成度評価を行っている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修・臨床実習等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。実習実施前の協議を徹底すると共に、教員による実習巡回を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ドラッグストア実務実習	医薬品登録販売者店舗管理者要件である実務実習を月80時間行い、実践的に現場を学習する	株式会社コクミン、株式会社ココカラファイングループ、株式会社マツキヨココカラ＆カンパニー、株式会社ドラッグイレブン、株式会社ドラッグストアモリ、株式会社サンキュードラッグ、株式会社サンドラッグ、株式会社 大賀薬局、株式会社　コスモス薬品

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講習会に専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:ドラッグストアにおけるセルフメディケーション推進の事例
主　催:日本チェーンドラッグストア協会
実施日:令和4年8月19日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:ドラッグストア業界が、セルフメディケーション推進のために様々な取り組んでいる。人々の安全安心な暮らしを支えるためにその課題を検討する。

研修名:JMA講師研修会
主　催:一般社団法人JMA
実施日:令和4年9月27日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:検定基準・内容の確認や見直しなどを行う。また、就職に関する情報や講義、化粧品の新商品などの講座で知識を深めることができる。

研修名:薬膳・漢方検定研修
主　催:薬膳・漢方検定運営事務局
実施日:令和4年12月7日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:検定基準・内容の確認や業界に関する情報、資格の活用方法など、研修で知識を深めることができる。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:医健4校勉強会
主　催:滋慶学園
実施日:令和5年6月2日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:滋慶学園グループ医健4校の広報・教育・就職に関して、各校の現状及び目標などを報告し、指導方法や課題について検討する。

研修名:医療事務教育分科会
主　催:滋慶学園
実施日:令和5年6月27日
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:滋慶学園グループ医療事務系学科・コース担当者が、各校の現状などを話し合い、指導方法や課題について検討する。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:日本薬業専門学校連絡協議会
主　催:日本チェーンドラッグストア協会
実施日:日程調整中
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:医薬品業界の取り組み、プレゼンテーション、ドラッグストア業界の情勢を学び企業との情報交換を行う。

研修名:JMA講師研修会
主　催:一般社団法人JMA
実施日:日程調整中
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:検定基準・内容の確認や見直しなどを行う。また、就職に関する情報や講義、化粧品の新商品などの講座で知識を深めることができる。

研修名:薬業科教育分科会
主　催:滋慶学園
実施日:日程調整中
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:滋慶学園グループ薬業科担当者が、登録販売者教育、各校の現状などを話し合い、指導方法や課題について検討する。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:薬業科教育分科会
主　催:滋慶学園
実施日:日程調整中
参加者:薬業科専任教員1名
内　容:滋慶学園グループ薬業科担当者が、登録販売者教育、各校の現状などを話し合い、指導方法や課題について検討する。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者、地域住民、高等学校、企業により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価して、様々な角度からアドバイスや支援を行うことを通して、学校運営の改善に活用することを方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	教育成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

薬業科に係る就職について概ね、3/31前後で就職率が100%になる傾向にあるが、卒業式までにできる限り就職100%を達成するよう改善できないかとの指摘を頂いた。就職が遅れる主な理由として、学生自身の就活の遅れがある為、職業観や仕事観を確立し学生の動機づけ・意識づけに力を注いだ。また、1年間に及ぶ実習を受け入れて頂いているが、就職は他企業へするケースがあるとの指摘があり、実習先を選定する段階から就職先を意識して決めるよう指導した。また、各委員より各項目概ね「評価4」の評価を頂いたが、その他の意見としては、学科を問わず学校全体への意見として、各委員から「コミュニケーション能力の更なる向上に努めてほしい」「就職100%と共に1年以内の離職率の低下が重要」「国家資格の合格率と共に受験率の更なる向上を期待する」「中途退学率の更なる低減が必要」「基礎力と応用力の強化が重要」など多くの意見を頂いた。リーダー会議、学科会議、キャリアセンター会議、全体会議等でこれらの意見を共有し、具体的な対策を実施し、その実現を図っている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

(令和5年4月1日現在)

名　前	所　　属	任　　期	種　　別
村田　栄治	村田整骨院　院長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(柔道整復科)
要　信義	要鍼灸院　院長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(鍼灸科)
橋本　修二	社会医療法人財団池友会　福岡和白病院 医療連携室　主幹	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員 (救急救命公務員科)
福田　智	医療法人　せと山荘クリニック　統括部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(理学療法科)
丸田　淳司	医療法人誠和会　牟田病院　医療部門科長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(作業療法科)
案西　浩平	医療法人社団　桜香　あんざい歯科クリニック 理事長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(歯科衛生士科)
今里　安江	医療法人社団　扶洋会　秦病院　看護部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(看護科)
安積　研二	AcroBats株式会社　取締役会長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員 (スポーツ科学科)
中西　祐介	株式会社サンドラッグ　人事部採用課主任	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(薬業科)
谷口　貴隆	スポーツ科学科　卒業生	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	卒業生代表
冨崎　尚美	在校生(鍼灸科2年)保護者	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	保護者代表
稲富　勉	福岡県立香椎高等学校　校長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	高等学校関係者
戎崎　淳一	福岡市博多区大浜公民館　館長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期　令和5年6月30日　(前回 令和4年6月30日)

(ホームページ)　・　広報誌等の刊行物　・　その他(　　)

http://www.iken.ac.jp/

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実行方針で提起された目標(カリキュラムのイノベーション、中途退学率の低減、就職100%、国家試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒアリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。その為にも、学校の方針や考え方に加え、様々な詳細情報を十分に理解して頂いた上で、意見やアドバイス、支援を頂くことが重要となる。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である非常勤講師との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、企業とタイアップして行うイベント等あらゆる機会を活用して、積極的に情報の提供を行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校長名　所在地　連絡先　学校の沿革　建学の理念　学校安全関連　保健対策
(2)各学科等の教育	受入方法　定員　在校生数　カリキュラム　学年歴　シラバス　卒業進級判定基準　取得する称号 取得を目指す資格　資格試験合格実績　主な就職先
(3)教職員	教職員数　学校組織図　教員の実績
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育ロードマップ　業界研修　キャリアセンター　就職指導
(5)様々な教育活動・教育環境	設備紹介　海外実学研修　部活動
(6)学生の生活支援	中途退学防止支援　就職支援　健康支援　学費相談　進路変更支援　支援機関　支援制度
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧　奨学金　教育ローン案内
(8)学校の財務	財務資料
(9)学校評価	学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	留学生支援　留学生の受入れ状況　外国の学校との交流状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法 ホームページ　広報誌等の刊行物

URL:　http://www.iken.ac.jp/

（別紙様式１－２）

授業科目等の概要

（医療専門課程薬業科美容アドバイザーコース）令和５年度

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			情報処理Ⅰ	Windowsの基本操作の習得とWordでの文章・作図、Ｅｘｃｅｌでの表計算などができるようになる。	1	30	2		○		○			○	
2		○		情報処理Ⅱ	Windowsの基本操作の習得とPowerPointでのプレゼンテーション資料作成などができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
3	○			英会話	グローバルな感性を養い、国際化に対応できる日常英会話や病院での実践英会話と医療用語を習得することができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
4	○			コミュニケーションスキル	自己との対話や様々な感覚・覚醒の練習を通して、豊かな人間形成を図り、それをベースに日常のコミュニケーションを作り出すことができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
5			○	ホスピタリティ	ホスピタリティの基本を理解し、接客や接遇の場面でホスピタリティ精神を発揮することができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
6			○	ビジネス文書	ビジネス文書を正しく理解し、ビジネスで使われる基本的な文書が書けるようになる。	2	30	2	○			○			○	
7	○			接客カウンセリング	接客応対技術を患者様の心理的な側面より理解し、購買に繋げるカウンセリングができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
8	○			解剖生理学Ⅰ	人体総論及び、骨格系・皮膚・感覚器系・筋系など体の構造と働きについて説明できるようになる。	1	30	2	○			○			○	
9	○			解剖生理学Ⅱ	人体総論及び、骨格系・皮膚・感覚器系・筋系など体の構造と働きについて説明できるようになる。	1	30	2	○			○			○	
10	○			解剖生理学Ⅲ	呼吸器系・循環器系・消化器系など体の構造と働きについて説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
11	○			解剖生理学Ⅳ	神経系・生殖器系・泌尿器系・内分泌系など体の構造と働きについて説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
12	○			病態生理学	病気にかかる原因・主因及び誘因について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	

13	○			臨床医学	内科系・外科系など主な病気とその治療内容について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
14	○			薬事関係法規	医薬品取り扱いに関する法規、及び自己責任とセルフメディケーションについてて説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
15	○			医薬品の適正使用・安全対策	医薬品の適正使用情報・医薬品の安全対策について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
16	○			体の症状とヘルスケア	人体の症状とそのヘルスケアについて説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
17	○			こころとヘルスケア	こころの病気に起因した病気について学び、アドバイザーとしての知識を習得し、基礎的なヘルスケアができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
18	○			薬とヘルスケア	セルフメディケーションを推進する上で最も重要な一般用医薬品について理解し、医療従事者として情報提供ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
19	○			病気とヘルスケア	病気の予防・改善・健康の維持・増進を図るための説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
20	○			介護・応急処置・運動・応対	介護・応急手当・運動・応対の基礎知識を学び、説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
21	○			栄養・食生活・育児	人が健康な生活を送る為に必要な栄養・食生活について、患者様へのアドバイスができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
22	○			一般用医薬品論Ⅰ	精神神経・呼吸器官に作用する薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
23	○			一般用医薬品論Ⅱ	精神神経・呼吸器官に作用する薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
24	○			一般用医薬品論Ⅲ	胃腸に作用する薬・排泄に関わる部位に作用する薬・心臓などの器官や血液に作用する薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
25	○			一般用医薬品論Ⅳ	胃腸に作用する薬・排泄に関わる部位に作用する薬・心臓などの器官や血液に作用する薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
26	○			一般用医薬品論Ⅴ	婦人薬・アレルギー用薬・鼻に用いる薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
27	○			一般用医薬品論Ⅵ	婦人薬・アレルギー用薬・鼻に用いる薬について説明ができるようになる。	1	30	2	○			○			○	

28	○			一般用医薬品論Ⅶ	皮膚に用いる薬・眼科用薬・歯や口中に用いる薬・禁煙補助剤について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
29	○			一般用医薬品論Ⅷ	滋養強壮保健薬・漢方処方製剤・生薬製剤について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
30	○			一般用医薬品論Ⅸ	滋養強壮保健薬・漢方処方製剤・生薬製剤について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
31	○			一般用医薬品論Ⅹ	公衆衛生用薬・一般用検査薬について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
32		○		基礎漢方学Ⅰ	東洋医学の観点から、漢方薬の成分・効能効果・副作用の基礎について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
33		○		基礎漢方学Ⅱ	東洋医学の観点から、漢方薬の成分・効能効果・副作用の基礎について説明ができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
34		○		卒業研究Ⅰ	2年間学習したことや体得したことを、個人またはグループでテーマを設定し、発表することができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
35		○		卒業研究Ⅱ	2年間学習したことや体得したことを、個人またはグループでテーマを設定し、発表することができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
36		○		卒業研究Ⅲ	2年間学習したことや体得したことを、個人またはグループでテーマを設定し、発表することができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
37			○	SPI	就職試験を成功させるために対策学習を学び、就職活動に対応できる能力を身につけることができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
38			○	登録販売者特別講座Ⅰ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
39			○	登録販売者特別講座Ⅱ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
40			○	登録販売者特別講座Ⅲ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
41			○	登録販売者特別講座Ⅳ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
42			○	登録販売者特別講座Ⅴ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	

43			○	登録販売者特別講座Ⅵ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
44			○	登録販売者特別講座Ⅶ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
45			○	登録販売者特別講座Ⅷ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
46			○	登録販売者特別講座Ⅸ	登録販売者試験の対策学習を行い、試験に合格することができるようになる。	2	30	2	○			○			○	
47			○	実習指導Ⅰ	ドラッグストアにおける実務実習について、現場での留意点や技術向上のための知識を身につけることができるようになる。	1	30	2	○			○		○		
48			○	実習指導Ⅱ	ドラッグストアにおける実務実習について、現場での留意点や技術向上のための知識を身につけることができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
49			○	実習指導Ⅲ	ドラッグストアにおける実務実習について、現場での留意点や技術向上のための知識を身につけることができるようになる。	1	30	2	○			○		○		
50			○	就職指導	就職活動を成功させるために社会人基礎力を学び、履歴書作成・面接の実践ができるようになる。	2	30	2		○		○		○		
51			○	ドラッグストア実務実習	登録販売者（店舗管理者）の要件である実務実習を月80時間程度行い、実践的な知識と技術を身につけることができるようになる。	1 2	960	32			○		○		○	○
52			○	海外研修	海外の病院や医薬品業界を視察し、国際人としての知識を身につけることができるようになる。	1	120	4			○		○		○	
53		○		美容概論Ⅰ	皮膚の構造やスキンケアの知識を理解し、肌悩みに応じた化粧品の使い方を説明することができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
54		○		美容概論Ⅱ	皮膚の構造やスキンケアの知識を理解し、肌悩みに応じた化粧品の使い方を説明することができるようになる。	1	30	2	○			○			○	
55		○		メイクアップテクニックⅠ	道具の使い方・ベースメイク・アイメイクのテクニックを学び、実践ができるようになる。	1	30	2		○		○			○	
56		○		メイクアップテクニックⅡ	道具の使い方・ベースメイク・アイメイクのテクニックを学び、実践ができるようになる。	1	30	2		○		○			○	
57		○		メイクアップテクニックⅢ	道具の使い方・ベースメイク・アイメイクのテクニックを学び、実践ができるようになる。	2	30	2		○		○			○	

58		○		メイクアップテクニックⅣ	道具の使い方・ベースメイク・アイメイクのテクニックを学び、実践ができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
59		○		トータルビューティーⅠ	カウンセリングからフルメイク・ヘアアレンジなど総合的な実践ができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
60		○		トータルビューティーⅡ	カウンセリングからフルメイク・ヘアアレンジなど総合的な実践ができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
61		○		トータルビューティーⅢ	カウンセリングからフルメイク・ヘアアレンジなど総合的な実践ができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
62		○		トータルビューティーⅣ	カウンセリングからフルメイク・ヘアアレンジなど総合的な実践ができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
63		○		トータルビューティーⅤ	カウンセリングからフルメイク・ヘアアレンジなど総合的な実践ができるようになる。	2	30	2		○		○			○	
64		○		アロマテラピー	精油などの基礎知識を学び、アロマテラピーを安全に使用することができるようになる。	1	30	2		○		○			○	
65			○	美容総合Ⅰ	化粧品選びからフルメイク、スキンケアなど、美容について総合的な説明が出来るようになる。	2	30	2		○		○			○	
66			○	美容総合Ⅱ	化粧品選びからフルメイク、スキンケアなど、美容について総合的な説明が出来るようになる。	2	30	2		○		○			○	
合計					66 科目			164 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	２年間の合計修得単位が１１４単位以上の者は、卒業することができる。 ※不合格科目のある者は卒業判定会議により最終決定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	講義・演習・実技・実習のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。